

偏在指標について

1 医師偏在指標

都道府県・二次医療圏ごとの医師の偏在の状況を全国ベースで客観的に示すための指標であって、従来の人口10万対医師数をベースに、地域ごとの医療ニーズや人口構成、医師の性年齢構成等を踏まえて算出されたもの。

(1) 医師偏在指標の算出式

- ・ 医師数は、性別ごとに20歳代、30歳代・・・60歳代、70歳以上に区分して、平均労働時間の違いを用いて調整する。
- ・ 従来の人口10万人対医師数をベースに、地域ごとに性年齢階級による受療率の違いを調整する。

$$\text{医師偏在指標} = \frac{\text{標準化医師数}}{\text{地域の人口} \div 10\text{万} \times \text{地域の標準化受療率比}(\ast 1)}$$

$$\text{標準化医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

$$\text{地域の標準化受療率比}(\ast 1) = \frac{\text{地域の期待受療率}}{\text{全国の期待受療率}}(\ast 2)$$

$$\text{地域の期待受療率}(\ast 2) = \frac{\sum (\text{全国の性年齢階級別受療率} \times \text{地域の性年齢階級別人口})}{\text{地域の人口}}$$

(出典) 性年齢階級別医師数：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査
 平均労働時間：「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」（平成28年度厚生労働科学特別研究「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査研究」研究班）
 性年齢階級別受療率：平成26年患者調査及び平成27年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
 人口：平成29年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
 ※患者流出は、流出発生後のデータ（診療行為発生地ベース）を分母で用いることにより、加味している（平成26年患者調査より）

出典：医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会（第30回） 参考資料

(2) 医師偏在指標（暫定値）

厚生労働省から都道府県に対し、令和元年6月に提供された医師偏在指標（患者の流出入を一定程度反映した暫定値）は、次のとおりです。（確定値は、令和元年7月頃に厚生労働省から提供される予定。）

医療圏	医師偏在指標	順位	区分	(参考)人口10万対医師数	医療圏	医師偏在指標	順位	区分	(参考)人口10万対医師数
全国	238.6			240.1	香取海匝	176.9	176位		186.2
千葉県	199.9	38位	少数	189.9	山武長生夷隅	119.3	320位	少数	112.7
千葉	267.7	52位	多数	273.1	安房	267.4	53位	多数	419.5
東葛南部	192.2	132位		173.1	君津	161.0	226位	少数	149.0
東葛北部	192.7	129位		172.1	市原	192.9	127位		175.2
印旛	181.3	162位		172.7					

都道府県単位の場合、32位以下が医師少数都道府県。

二次保健医療圏の場合、順位は335医療圏中の順位。112位以上が医師多数区域、224位以下が医師少数区域。

「人口10万対医師数」は、平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査による人口10万対医療施設従事医師数。

2 外来医師偏在指標

都道府県・二次医療圏ごとの外来医師の偏在状況を全国ベースで客観的に示すための指標であって、人口10万あたり診療所医師数をベースに、地域ごとの医療ニーズや人口構成、医師の性年齢構成、病院での外来診療提供状況等を踏まえて算出されたもの。

(1) 外来医師偏在指標の算出式

- 外来医療については、診療所の担う役割が大きいため、診療所医師数を、新たな医師偏在指標と同様に性別ごとに20歳代、30歳代・・・60歳代、70歳以上に区分し、平均労働時間の違いを用いて調整する。
- 従来の人口10万人対医師数をベースに、地域ごとに性・年齢階級による外来受療率の違いを調整する。

$$\text{外来医師偏在指標} = \frac{\text{標準化診療所医師数}}{\left(\frac{\text{地域の人口}}{10万} \times \text{地域の標準化受療率比}^{(\ast 1)} \right) \times \text{地域の診療所の外来患者対応割合}^{(\ast 3)}}$$

$$\cdot \text{標準化診療所医師数} = \sum \text{性・年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性・年齢階級別平均労働時間}}{\text{全診療所医師の平均労働時間}}$$

$$\cdot \text{地域の標準化外来受療率比}^{(\ast 1)} = \frac{\text{地域の期待外来受療率}^{(\ast 2)}}{\text{全国の期待外来受療率}}$$

$$\cdot \text{地域の期待外来受療率}^{(\ast 2)} = \frac{\sum (\text{全国の性・年齢階級別外来受療率} \times \text{地域の性・年齢階級別人口})}{\text{地域の人口}}$$

$$\cdot \text{地域の診療所の外来患者対応割合}^{(\ast 3)} = \frac{\text{地域の診療所の外来延べ患者数}}{\text{地域の診療所と病院の外来延べ患者数}}$$

(出典) 性年齢階級別医師数：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査
 平均労働時間：「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」（平成28年度厚生労働科学特別研究「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査研究」研究班）
 外来受療率：第3回NDBオープンデータ（平成28年度診療分）、人口推計（平成28年1月1日現在）
 性年齢階級別受療率：平成26年度患者調査及び平成27年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
 人口：平成29年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査
 外来延べ患者数：平成26年度医療施設静態調査 ※患者流入は、流入発生後のデータ（診療行為発生地ベース）を分母に用いることにより加味している。
 (平成26年患者調査)

出典：医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会（第30回） 参考資料

(2) 外来医師偏在指標（暫定値）

厚生労働省から都道府県に対し、令和元年6月に提供された医師偏在指標（患者の流出入を一定程度反映した暫定値）は、次のとおりです。（確定値は、令和元年7月頃に厚生労働省から提供される予定。）

医療圏	医師偏在指標	順位	区分	(参考)人口10万診療所医師数	医療圏	医師偏在指標	順位	区分	(参考)人口10万診療所医師数
全国	106.3			80.2	香取海匠	80.1	289位		56.1
千葉県	87.1	41位		60.6	山武長生夷隅	81.9	279位		56.5
千葉	97.1	179位		74.5	安房	84.2	265位		89.8
東葛南部	88.1	242位		59.8	君津	84.2	266位		58.3
東葛北部	92.4	214位		60.8	市原	63.7	331位		43.6
印旛	76.8	301位		50.1					

二次保健医療圏の順位は全国335医療圏中の順位であり、112位以上が医師多数区域。

※外来計画には「少数区域」の概念がない。

「人口10万対診療所医師数」は、平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査による。